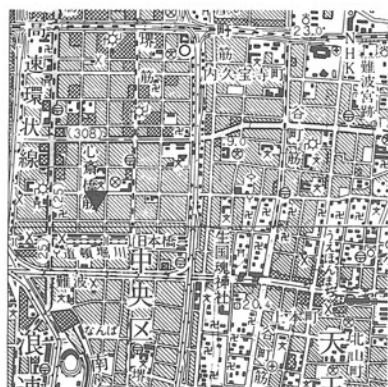


ひがしんさいばし 大阪・東心斎橋二丁目所在遺跡

- 1 所在地 大阪市中央区東心斎橋二丁目
- 2 調査期間 二〇〇一年(平13)九月
- 3 発掘機関 (財)大阪市文化財協会
- 4 調査担当者 小倉徹也
- 5 遺跡の種類 近世都市跡
- 6 遺跡の年代 江戸時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(大阪東北部・大阪東南部)

調査地は心斎橋の東側に所在する、新たに発見された遺跡である。この付近は「島之内」と呼ばれる地域で、中世に石清水八幡宮領の

三津寺庄として小規模な莊園村落が形成され、中世末から近世にかけて三津寺村が成立し、元和年間に大坂城下町に編入されたことが古文書などの記載からわかつてい

る。木簡は調査区東側の井戸SE〇二の下底付近の堆積

物中から出土した。木簡のほか一七世紀中頃から後半の陶磁器、漆器、砥石、鉄製火箸、魚骨、ウリ科の種子などが出土した。

8 木簡の釈文・内容

(1) 卯年 辛

(146)×32×8 019

木簡の上端は原型をとどめているが、下端は破損している。木簡には大きく「あ」と書かれ、その右側には「卯年辛」と記されている。「辛」は「卯年」に比べてやや文字が小さく書かれている。なお、木簡の用途は不明である。

9 関係文献

(財)大阪市文化財協会『葦火』九八号(二〇〇二年)

(小倉徹也・鳥居信子)

